

定期作況報告

(第5号 平成11年9月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

- 8月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.0℃、1.1℃高かった。降水量は平年より43mm少なく、平年対比34%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より5.3時間少なく、平年対比89%であった。夏日（最高気温25℃以上）は7日間で、うち2日間は真夏日（最高気温30℃以上）であった。
- 9月上旬：最高気温および最低気温は平年より各々3.1℃、2.5℃高かった。降水量は平年より41mm少なく、平年対比38%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より4.9時間多く、平年対比111%であった。夏日は7日間であった。
- 9月中旬：最高気温は平年より1.5℃高く、最低気温は平年より0.9℃低かった。降水量は平年より9mm少なく、平年対比82%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より27.2時間多く、平年対比173%であった。夏日は3日間であった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	25.8	24.8	1.0	26.0	22.9	3.1	21.5	20.0	1.5	24.4	22.6	1.8
最低気温(℃)	16.3	15.2	1.1	15.5	13.0	2.5	9.6	10.5	▲0.9	13.8	12.9	0.9
平均気温(℃)	20.4	19.7	0.7	20.5	17.5	3.0	15.5	14.9	0.6	18.8	17.4	1.4
降水量(mm)	22	65	▲43	25	66	▲41	40	49	▲9	87	180	▲93
降水日数(日)	5	4	1	4	5	▲1	5	5	0	14	14	0
日照時間(h)	43.9	49.2	▲5.3	51.5	46.6	4.9	64.5	37.3	27.2	159.9	133.1	26.8

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作況

1) 水稻の部

作況 やや良

事由： 成熟期は9月6～9日で平年より13～14日早く、登熟日数は平年より8～11日短かった。穂数は各品種・苗とも平年より多く、平年対比108～122%であった。一穂粒数は平年対比93～103%であった。㎡当たり粒数は各品種・苗とも平年より多く、平年対比106～117%であった。稔実歩合は㎡当たり粒数の多かった「ゆきひかり」中苗を除き平年より高かった。㎡当たり稔実粒数（㎡当たり粒数×稔実歩合）は各品種・苗とも平年より多く、平年対比108～117%であった。出穂後の経時登熟歩合は各品種・苗とも出穂後30日目において平年を大きく上回ったが、成熟期における登熟歩合は平年並かやや高い程度であった。

以上、各品種・苗とも、㎡当たり稔実粒数が平年より多く、また、㎡当たり登熟粒数が平年を上回っている（平年対比110～117%）が、褐変粒の発生がやや多かったことと、これによる屑米歩合への影響が未確認であるため、目下の作況は「やや良」である。

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期 (月・日)			登熟日数 (日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9. 7	9.21	△14	43	54	▲11
ゆきひかり 中苗	9. 9	9.23	△14	43	53	▲10
イシカリ 中苗	9. 6	9.19	△13	45	53	▲ 8
ゆきまる 中苗	9. 6	9.19	△13	44	53	▲ 9
きらら397 成苗	9. 6	9.19	△13	44	54	▲10

注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。 2) △・▲印は平年に比べて早・減を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	㎡当り穂数 (本)				一穂粒数 (粒)				㎡当り粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	743	688	55	108	47.6	46.8	0.8	102	35.4	32.8	2.6	108
ゆきひかり 中苗	723	593	130	122	59.1	63.0	▲3.9	94	42.7	36.6	6.1	117
イシカリ 中苗	688	604	84	114	52.6	56.8	▲4.2	93	36.2	33.4	2.8	108
ゆきまる 中苗	703	642	61	110	51.3	53.6	▲2.3	96	36.1	34.2	1.9	106
きらら397 成苗	769	710	59	108	47.2	46.0	1.2	103	36.3	32.6	3.7	111
品 種 苗	稔実歩合 (%)				㎡当稔実粒数(×1000粒)							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	91.6	91.6	0.0	100	32.4	30.1	2.3	108				
ゆきひかり 中苗	88.8	91.9	▲3.1	97	37.9	33.6	4.3	113				
イシカリ 中苗	91.8	85.4	6.4	107	33.2	28.5	4.7	117				
ゆきまる 中苗	94.4	92.6	1.8	102	34.1	31.7	2.4	108				
きらら397 成苗	92.0	84.1	7.9	109	33.4	29.3	4.1	114				

注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。 2) ▲印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目			成熟期		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	10.5	2.9	7.6	72.0	34.7	37.3	77.8	70.1	7.7	77.5	79.0	▲1.5
ゆきひかり 中苗	9.3	6.2	3.1	54.4	34.0	20.4	69.2	63.0	6.2	64.3	72.7	▲8.4
イシカリ 中苗	13.2	5.9	7.3	60.5	40.4	20.1	73.0	75.0	▲2.0	71.3	76.3	▲5.0
ゆきまる 中苗	10.5	2.9	7.6	69.6	48.4	21.2	78.8	79.0	▲0.2	83.0	79.5	3.5
きらら397 成苗	—	5.2	—	67.0	39.7	27.3	79.1	76.5	2.6	77.9	78.8	▲0.9

注1) 平年値は平成6～10年の5か年の平均値。

2) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 畑作の部

(1) 秋播小麦 作況：平年並

事由：播種は、平年並の9月10日に行った。

(2) とうもろこし 作況：不良

事由：収穫は平年より3日早く行なった。稈長は中生の「キタユタカ」ではほぼ平年並であったが、晩生の「P3732」は平年より21cm低かった。雌穂の着生が全般に悪く、特に「P3732」では極めて悪かった。

したがって、目下の作況は不良である。

表1 収穫期のとうもろこしの生育

品 種 名	稈 長 (cm)			着 雌 穂 高 (cm)			収 穫 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	240	246	▲ 6	107	110	▲ 3	9.17	9.20	△ 3
P3732	252	273	▲ 21	130	131	▲ 1	9.17	9.20	△ 3

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) 平成10年より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(3) 大豆 作 況 : 平年並

事 由 : 前期に引き続いた高温の影響で登熟は進み、「トヨコマチ」では既に平年より13日早く成熟期に達した。主茎長は平年より短かく、主茎節数も平年より少ない。着莢数は、「トヨムスメ」が平年よりやや少ないが、「トヨコマチ」はほぼ平年並である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表2 9月20日の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	未	10. 6	—	54	59	▲ 5	9. 9	10. 2	▲0. 3
トヨコマチ	9. 16	9. 29	△ 13	57	62	▲ 5	10. 7	11. 0	▲0. 3

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	8. 3	6. 6	1. 7	75	82	▲ 7
トヨコマチ	5. 4	6. 0	▲0. 6	74	75	▲ 1

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(4) 小 豆 作 況 : 不良

事 由 : 開花以降の高温の影響で成熟期は平年より13日~15日早まった。主茎長は平年よりやや長く、分枝数はやや少なかった。着莢数は平年を上回ったが、登熟期の高温により百粒重が対平年比76%~78%と小粒化したため、子実重は平年を下回り、子実重の対平年比は81%~93%となった。

したがって、作況は不良である。

表3 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	8. 21	9. 3	△ 13	58	57	1	5. 6	5. 7	▲0. 1
エリモショウズ	8. 24	9. 8	△ 15	60	54	6	5. 1	5. 6	▲0. 5

品 種 名	着 莢 数 (個)			子 実 重 (kg/10a)				百 粒 重 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本年	平年	比較	対平比	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	63	56	7	301	324	▲23	93	10. 7	13. 8	▲ 3. 1
エリモショウズ	62	56	6	265	328	▲63	81	9. 3	12. 3	▲ 3. 0

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(5) ばれいしょ 作 況 : 平年並

事 由 : 8月中が高温であったため枯凋期は早まり、「男爵いも」で平年より6日早い8月30日に枯凋期を迎えた。「男爵いも」では上いも重は平年対比109%と多収を示したが、生育期間が短くなったことと二次生長が7.5%発生したことからでん粉価は平年を大きく下回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表4 9月20日のばれいしょの生育

品 種 名	枯 凋 期 (月日)			上 い も 重 (Kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	平年比
農林1号 男爵いも	未 8.30	達せず 9.5	— △ 6	— 4167	5154 3811	— 356	— 109

品 種 名	で ん 粉 価 (%)		
	本 年	平 年	比 較
農林1号 男爵いも	— 12.6	14.6 14.1	— ▲1.5

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

(6) てんさい 作 況 : やや不良

事 由 : 今期は高温少雨に経過したため、生育は前期よりやや回復したが、平年並には至っていない。すなわち、草丈はほぼ平年並であるが、生葉数は平年より少なく、根周も平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表5 9月20日のてんさいの生育

品 種 名	草 丈 (cm)			生 葉 数 (枚/株)			根 周 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	59	59	0	28.4	32.3	▲3.9	31.6	33.4	▲1.8
ストーク	59	57	2	27.0	33.8	▲6.8	33.8	36.8	▲3.0

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前5か年平均値。

「ストーク」の平年値は、前2か年平均値。

2) ▲は平年より減を示す。